

自分らしく生きよう

佐野 幹夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長



2015年の世相を表す「その年の漢字」が、京都の清水寺で森清範貫主の揮毫によって「安」と発表された。これは、日本漢字能力検定協会が全国から一般公募し、応募の中から選ばれたものである。その背景には、安保関連法案（国際平和支援法や自衛隊法など10法案の改正）が審議を経て採決に至ったことへの国民の関心の高まりや、テロや異常気象への不安、そして某芸人のフレーズ「安心してください、はいていますよ」に反映されるように、国民が「安心」を求めた結果だったといえる。

人の生き方には「安心」は礎であり「自分らしく生きる」が理想である。しかしながら、本来人間は生きていく上でさまざまな人と関わりを持って生きているため「自分らしく生きる」ことは難しい。なぜなら自分らしさを表現しようとすれば、他人からの評価は厳しいものとなるからである。誰も「自分らしく生きたい」と思いながら社会の枠にとらわれ、限られた空間の中で追い求めているのが現実であろう。本当は「自分らしく生きる」ための理想像を個々の心の奥底に持っているが、長い時間軸の中で周囲との調和を考え妥協し、責務と自分に言い聞かせながら心の叫びを封印し、徐々に諦めかけていく姿に大人になったと周囲から称賛され、自分も成長したと錯覚することで自身を納得させているのが現実である。「自分らしく生きる」ことは、心の奥深くに潜んでいる「体裁にとらわれず打算のない正直な自分を表現する」ことである。しかし、個々に価値観が違うため、常に自分、そして他人との闘いの連続で、生きていく上で現実の世界は自分の思い通りにならないことは多々ある。それでも、諦める必要はなく「自分らしさ」というのは最初から決まっておらず、さまざまな経験から成長していく過程において自身の考え方も変化していくため、理想像を常に追い求めてチャレンジしていけばよいのではないかと考える。一般論ではあるが、最近の傾向として他人に簡単に妥協したり、迎合したりする生き方が社会に蔓延しているように思う。自分で意思決定することもなければ、責任を取ることもないからである。常に責任を取らないポジションに居ながら、自身へのメリットだけが判断基準となる。自らが考えず指示通りにしていれば日常業務は遂行でき、他人に追従する生き方は面白くないが、ある意味一番楽な生き方と言えよう。しかし、それが満足感や達成感の得られる生き方であろうか？果たして、それが「自分らしく生きる」ことになるだろうか？

私自身、診療放射線技師人生40年間の節目を迎え、自分のたどった人生を顧みて「自分らしく生きたか？」と自問自答する中で、常に患者さんと接する業務に携わってこられた喜びが生きがいに感じた技師人生であり、その限られた空間の中で「自分らしく生きた」と自負している。

本会が取り組んでいるさまざまな継続的展開の中で、会員の皆さんが「診療放射線技師として自分らしく生きる」ために、自身が導き出した理想の医療現場へと作り上げることを大いに期待するものである。